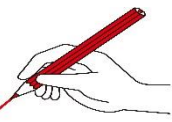


Move Mountains

5年生通信

6月6日36号



○読書術

積読(つんどく)の記事に大変反響をいただいております。

「読書術知りたいです!」と声をかけてくださった方もおります。

読書術なんて大層なことは申し上げられませんが、私が個人的にやっていることをお伝えします。また、ショーペンハウエル「読書について」から読書術を学んでみたいと思います。

①小胎のやっていること

19号で書いた通り、・2つの自治体の図書館から・3週間で・20冊借りるようにしています。

この20冊は「読む」ことがあれば「見る」こともあれば「目を通せず返す」ものもあります。

ここで大切なのは、とにかく本に触れること。積んでおくことに価値を見出すこと、時には諦めることです。笑

図書館では

- ・1時間ほどじっくりと選ぶ時
- ・10分!と決める時があります。

10分!と決める時にはとにかく歩いて目についた本を手に取ります。「ガチャ」に感覚が近いでしょうか。普段だったら全く手に取らないような本と出会える時があります。

「本を見ずに選ぶ」といえば東京に「梟(ふくろう)書房」というお店があります。

このお店には、本が並びますが、全てにカバーがかけられていて書名は分かりません。

ただし、本の紹介文だけは書かれています。

本当にわくわくする仕掛けのお店です。(SNSで話題になってから本の入荷が間に合っていない



いようで、在庫が少ないです…)

こういう選び方もあります。

仕事に関わることで、明治時代の文献など、過去の資料にあたりたい時には「国立国会図書館 デジタルアーカイブ」を利用することもあります。

コロナ禍を機に、著作権法の改正がありました。著作権が切れた文献を中心に個人利用できるようにデジタル化したものを読むことができるサービスです。

②ショーペンハウエル「読書について」から学ぶ読書術

なかなか刺激的な物言いで、右の帯に書いてある通り、「切れ味抜群の超ドS読書術！」です。

大量に、またほとんど一日中読書する人は、自分で考える能力をしだいに失っていく。

たくさん読書すればするほど、それだけ読んだ内容が残らない。

実に多くの学者がこの例に当てはまる。彼らは読書して馬鹿になってしまったのである。

……なるほど。

では、どうすればいいのか。

読んだ内容について後から再び考えることもなく、読書が続いていると、たいていは失われてしまう。

読んだもののうち、50分の1も吸収されない。残りは蒸発や呼吸などによって出ていってしまう。

つまり、読んだ後に読書メモをつけるなり、感想をちょっと書いておくなり、インプットばかりしていてもダメでアウトプットもセットする必要がある、そういうことでしょうか。

私は、幸いにもこうして「学級通信」を書くことでアウトプットの機会を作っています。



ちなみに、読書メモは「読書メーター」というアプリを使ってつけています。

さて「読んだもののうち、50分の1も吸収されない」とありますが、それでいいと考えています。

全て覚える必要はないからです。検索した方が早くて正確です。

そうではなくて「あの本に確か書いてあったような…」と、**情報にアクセスする力**の方がよっぽど求められています。

だから、多読（たくさん読むこと）にも価値がないわけではありません。

やはり、本へのハードルは高く、漫画の方がいい！という声も聞こえてきます。

「税金で買った本」への反響も大きく、「購入しました」という声をいただいております。

他のオススメは…ジャンプで連載中の「あかね噺（ばなし）」でしょうか。落語家を目指すお話です。言葉遊びの世界に引き込まれること間違いなし。



今回はお便りテーマを「5年生に薦めたいマンガ！」で募集します！

読んでいる職員も参加ください！お待ちしております！

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

